

医療的ケアの必要な子どもの大災害時対策—自家発電機と吸引器について

アライブ 武山裕一

人工呼吸器、吸引器、酸素濃縮機をお使いの在宅障害児のご家庭では、今回のような大規模災害時の備えとして、発電機や手動式吸引器の購入を検討されている方が多いと思います。機種選択のポイントをまとめました。

★ ポイント1. 使用する電気機器の容量によって機種を選択します。各メーカーによっていろいろな容量の機種があります。人工呼吸器の他にどのような医療機器や家電を使用するかで最適なものを選んでください。

☆ 支援学校や福祉施設では、26 アンペア程度のもの。

ホンダEU26i <http://www.honda.co.jp/generator/products/eu26i.html>

人工呼吸器本体の最大使用アンペア 1.5A + 加温加湿器の最大使用アンペア 3.5A=5 A (1名あたりの最大使用アンペア)。この計算でいくと5名同時使用できます。(加温加湿器の水が温まっていた場合)

*加温加湿器は水を温める際(70度位)に一番電気を使用します。一度暖まればその後はさほど電力は使用しません。

☆ 一般の患者さんでは、16 アンペア程度のもの。

ホンダEU16i <http://www.honda.co.jp/generator/products/eu16i.html>

酸素濃縮器 1.5A + 人工呼吸器本体の最大使用アンペア 1.5A + 加温加湿器の最大使用アンペア 3.5A=6.5A + 冷蔵庫などの家電も使えます。

☆ 一般の患者さんで、医療機器だけを動かしたいという方では、9 アンペア程度のもの。

ホンダEU9i <http://www.honda.co.jp/generator/products/eu9i.html>

☆ この他に、家庭用カセットコンロで使用できるもの。最大駆動時間は2-3時間と短いですが、メンテナンスは楽です。<http://www.honda.co.jp/generator/enepo/index.html>

★ ポイント2. 実際の経験談です。

「通常の発電機(最大20A)の製品で、震災時は次の家電に試用しましたが、問題なく動きました。冷蔵庫(350L型)洗濯機・マイコン炊飯器・ファンヒーター・IHクッキングヒーター(100Vの製品)・PC等。人工呼吸器(HT50) 加温加湿器(MR410) 酸素濃縮器 たん吸引器を同時使用しましたが1時間問題なく使用できました。」

★ ポイント3. 注意事項

全ての発電機において言える事は、エンジンを回した際に必ず熱が発生します。かなり高温なのですが、冷却システムを兼ね備えている発電機は無いため必ず休ませる(エンジンを冷やす)ことも大切です。

その他、細かい注意事項です。

1. 使用中にガソリンの補給をするときは、必ずエンジンを一度停止してガソリン補給してください。
2. ガソリン補給後直ぐにエンジンを再稼動することは問題ありません。
3. エンジンオイルの劣化が早いので注意する。(初回は1ヶ月目若しくは20時間運転目以降は50時間~100時間)1年以上使用しない場合でもエンジンオイルの交換は必要です。
4. 起動電流が5A程度の電力を使用する機器に対しては、約3倍の発電が出来るモデルが良い。(5A必要とするIPVインパルサーやドライヤー等を使用する場合は、発電量15A以上の発電機を推奨。)
5. お宅にある医療機器のおおよその消費電力は、人工呼吸器=150W、酸素濃縮機=150W、加温加湿器=350W 合わせると650Wです。

東日本大震災被災地の重症心身障害児者支援 これからの課題

宮城県拓桃医療療育センター 地域・家族支援部 田中総一郎

今回の大震災で私たちが痛感したのは、災害時の備えやマニュアルを福祉目線で見直さなければならないこと、そして、一番頼りになったのは支援する側もされる側も普段からつながっている人たちであったことでした。障害児者が身近な存在として社会にあること、子どもたちを中心に私たちが支援者が普段からつながっていることが、大きな力を発揮するのです。今後への提言として、それぞれの課題をまとめました。

ご家庭

- 日用品（食糧・水など）の備蓄、電源の確保
- 医薬品・吸引器などの医療器具・ケア用品の備え
- 電力会社・消防署へ連絡（在宅人工呼吸器・酸素）
- 医療機関との連絡方法の確認（119はつながらなかった、直接病院へ行く方が早かった）
- 普段から地域の防災訓練に参加する

←「この町内会にこんな子がこんな助けを必要としている」ことを知ってもらう

医療機関

- 災害救急医療、被災者受け入れ（短期～復興まで長期に）
- 在宅人工呼吸器・酸素患者さんの電源供給・入院
- 持っている医療情報をフルに活用して安否確認・不足している医薬品などニーズの聞き取り

足踏式吸引器 新鋭工業KFS-400



福祉・教育

- 医薬品のお預かり（災害時用数日分）
- 自家発電機・足踏式吸引器の常備
- 普段のつながりから安否確認・ニーズの聞き取り
- 福祉避難所として機能する ←「通いなれたところはストレスが少ない」
- 生活目線から家族支援・兄弟支援

コーディネーターの創設

- 各地域でニーズと救援物資・情報・人員をマッチング
- 「いまここはどんな助けが必要か」声を上げる
- 避難所へ来れないご家庭への支援

カセットボンベ式 自家発電機 ホンダEU9iGB



行政

- 普段の障害児者の生活をよく知る ←「福祉目線の災害時対策」
- 障害児者の災害時の避難方法を確立する
←「初動の災害時マニュアルは重要」
- 災害時はコーディネーターの声に応じて試行錯誤しながら支援策を実行することができる
←「想定外への迅速な対応」
- 各部署の情報を共有して連携した支援ネットワークを迅速に構築するシステム作り
(医療・福祉・教育・行政)
- 通信手段の確保
- 地域レスパイトの拡充